

<白金標準、2026年大手投資銀行3000ドルを予測・・・>



(出所：オアシス)

12日にワシントンで開催された先進主要7ヶ国（G7）財務相会合でペッセント財務長官は中国からの重要鉱物への依存度を低減するための取り組みを強化するよう要請している。G7先進国、欧州連合、オーストラリア、インド、韓国、メキシコの財務大臣または閣僚が参加しており、重要鉱物の世界需要の60%を占めている。また米国内務省は、重要鉱物に対する関税のパブリックコメントは2025年で終えており、2026年には重要鉱物に対する関税を課す可能性が残っており、銅や銀に続きプラチナ、パラジウムも対象となる。

特に需要面では、プラチナの消費構造は比較的多様化しており、大規模な水素エネルギー開発の見通し、AI関連の消費成長、そして貴金属の強気相場による投資プレミアムの恩恵を受け、NY白金は12月に2584.5ドルの高値を付けたが、大手投資銀行の一部アナリストは2026年の目標値として3000ドルを提示するなど、高値追いを続ける値動きは2026年も健在であると思われる。また円建て商品の白金標準先物は、高市首相の衆議院の解散の話題から円安が進み、円建て価格を押し上げられている事から11200円の史上最高値を更新し、13000円へ向けた高値トレードを続けると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の週足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇している。RCIでは短期と長期が90%以上を維持している。ただ日足と指数平滑移動平均線の乖離が存在する事から10500円以下は買いの対応が妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,136,000 円(2026 年 1 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 126,720 円(2026 年 1 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引に

についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間: 平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あつせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター

<https://www.nisshokyo.or.jp>